

# ●▲ みねのぶ

8月号



米づくりを考える会「土生米」ドジョウ放流 (鈴木孝典さん圃場 美唄市光珠内中央 6月23日)

- 発行日/令和7年8月1日/No.1480号
- 発行/峰延農業協同組合  
〒079-0192 美唄市字峰延37番地  
Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793  
ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>
- 編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

**コープさつぽろのつぼろ店で  
催事を実施**

6月22日、朝取り野菜生産者の会がコープさつぽろのつぼろ店の移転リニューアルに伴い、野菜販売の催事を行いました。

コープさつぽろのつぼろ店は以前から近所野菜の出荷を行い好評頂いておりましたが、建物の老朽化に伴う移転工事が進められ一時閉店しており、6月20日より新店がオープンされました。

開店日にはJAみねのぶよりお米の販売を行い、初の日曜日となる6



月22日には朝取り野菜生産者の会の会員4名で近所野菜の販売についてPRを行いました。いずれも行列が出来る程の大盛況で、午前中には多くの野菜が完売しました。

**コープさつぽろ組合員活動部が  
ハスカップ狩り体験を実施**

6月27日、峰延ハスカップ生産組合の佐藤哲夫・房子氏の圃場において、コープさつぽろ組合員活動部が企画したハスカップ狩り体験の受け入れを実施しました。

コープさつぽろ組合員活動部は以



前から子ども農業体験として田植え・稲刈り体験等を行っており、今回のハスカップ狩り体験については参加者の強い希望から新たに企画されたものです。

当日はコープさつぽろ組合員活動部12名が参加され、本年度より観光農園を開園した佐藤農園において10時から1時間半程度摘み取りを行いました。1人当たり1kg以上摘み取る方もおり、大盛況で次年度以降もハスカップ狩りに参加したいという声が多く挙がりました。

**峰延グリーンアスパラ生産組合  
が現地研修を実施**

6月24日、峰延グリーンアスパラ生産組合が、アスパラ圃場の現地研修を実施致しました。

研修はアスパラの出荷共選を共同で実施しているJAびばいの試験圃場で行われ、圃場管理者である北藤職員から、アスパラの試験栽培の概要や今後留意すべき病害について説明を頂きました。

当日はアスパラ生産組合の会員8名の他、管内でアスパラの栽培を行っている組合員4名が参加し、病害に係る対策や管理方法、今後品種選定等の質疑応答が積極的に行われました。

**第5回(6月定例)理事会開催**

6月27日開催の第5回(6月定例)理事会において次の事項が決議されました。

**◇決議事項◇**

1. 理事に対する資金の貸付について
2. 信用限度を超える資金の貸付について
3. 規程等の制定について
4. 組合員による持分譲渡の承認について
5. 23号倉庫屋根雪害復旧工事について



### 減農薬米「土生米」圃場に ドジョウ放流

6月23日、当JAの米づくりを考  
える会(会長 鈴木孝典)は減農薬  
のブランド米「土生米」の圃場でドジ  
ョウの放流会を行いました。生産者  
自らが圃場にドジョウを放流し、ド  
ジョウが生息できる安全安心な環  
境で栽培を始めて今年で13年目を  
迎えます。



放流会は美唄市光珠内町中央の  
鈴木孝典さんの圃場で行われ、同会  
の会員や農協関係者らが集まり、ド

ジョウ約74キロを放流しました。  
今年の土生米の作付は6戸で23  
5畝、ドジョウは10アール当たり300  
kgを放流しました。

### ハスカップ視察受け入れ実施

6月29日、峰延ハスカップ生産組  
合の高橋廣氏の圃場において、ハスカ  
ップに係る視察受け入れを実施し  
ました。

本視察は東京の丸の内プラチナ  
大学が美唄市と提携して企画して  
いるフィールドワークの一環で、地域が  
抱える課題について様々な知見から  
協議し、解決に向けて取り組む事を  
目指したものです。

当日は9時から10時の1時間で  
受入を行い、美唄における歴史や峰  
延の取組、地域が抱える課題等につ  
いて、峰延ハスカップ生産組合事務局  
から説明した他、高橋氏より栽培  
方法等について説明を行いました。  
その後、実際に圃場に入り生育状況  
等を確認しました。

参加者からはハスカップの栽培方  
法や消費動向、新規に取り組む上  
での課題といった様々な質問がなされ  
ました。本内容については参加者で  
意見交換を行い、本年11月頃までに  
整理され、美唄市長に地域活性化

に向けた提案が行われる予定となっ  
ています。



### 水稲直播現地講習会の開催

7月9日、峰樺地区の三浦泰来氏  
圃場(品種…えみまる)において、水  
稲直播栽培に関する現地講習会が  
開催され、10名の生産者が参加しま  
した。

当日は、空知農業改良普及センタ  
ーの荒木普及員を講師に迎え、これ  
までの生育過程の振り返りと今後の  
栽培管理に関する講習が行われ



ました。  
また、6月中旬以降の高温傾向に  
より、水稲の生育が平年より大幅に  
早まっていることも説明され、今後の  
管理作業においての注意が必要であ  
ることが伝えられました。

### おくやみ申し上げます

真野純子さん (78歳) 7月3日  
岩見沢市峰延町116番地

JAみねのぶ七夕祭りビールパーティー、大盛況のうちに終了

7月7日16時より、当JAビール裏の駐車場に設けた特設会場にて、七夕祭りを兼ねたビールパーティーが開催されました。

当日は真夏の陽気に包まれる中、伊藤組合長の挨拶で開幕。組合員、地域住民、そのご家族や関係組織の皆様など、延べ170名が来場されました。

飲食コーナーでは、生ビールやソフトドリンクのほか、手打ちそば、焼き鳥屋、酒房たつみ、キッチンカーによる多彩な料理が提供され、来場者の皆様に大いに楽しんでいただきました。



開会挨拶をする伊藤組合長



たつみの飲食コーナー

また、小さなお子さんに人気の「輪投げコーナー」では、途切れることなく笑顔が広がり、「じゃんけん大会」では子ども部門、大人部門それぞれの優勝者に豪華景品が贈られました。

パーティーの締めくくりとして行われた「大抽選会」では、10等から順に発表が行われ、歓喜の声と惜しむ姿が交錯しました。

最後には高田専務による挨拶で締めくくられ、七夕祭りビールパーティーは盛況のうちに幕を閉じました。



じゃんけん大会に皆さんが参加



輪投げコーナーにお子さんは楽しそう



大抽選会で賞品ゲット



盛り上がっています

**青年部員が農業用廃プラ分別  
合計36ト受け入れ**

6月21日、JA青年部は峰樺3区の農産物検査場所で使用済み農業用廃プラスチックを受け入れました。産業廃棄物である廃プラスチックをリサイクルすることで、環境保全の推進や資源の有効利用促進することを目的に毎年取り組んでいます。

139人の生産者が持ち込んだ約36トの使用済みハウスビニールや育苗箱、フレコンバッグなどを青年部員が分別しました。分別した廃プラスチックは、苫小牧市の工場で有効資源としてリサイクルされ、火力発電所で化石燃料の代替燃料として再



利用されます。

荒井部長は「大友副部長を筆頭に参加部員の皆が事故、怪我無く終えることができた。廃プラの野焼きを防止し安心・安全な農産物生産を目指し、引き続き取り組んでいきたい」と話していました。

JAでは年2回、廃プラスチックの受け入れを行っていて、次回は10月下旬の実施を予定しています。

**香りの畦みちハーブ米  
ハーブ苗引渡し**

6月20日、当JAの「香りの畦みちハーブ米」の栽培に使用するハーブ苗の引渡しを峰樺3区の八田農園で行いました。



今年は一名の生産者に「アップルミント」を引き渡しました。

香りの畦みちハーブ米生産部会では、水田の周りにハーブを栽植し、カラムシの発生源であるイネ科雑草を抑制し、農薬の使用量を北海道が策定した化学合成農薬の成分使用回数22回に対して、半分以下に減らした「香りの畦みちハーブ米」を生産しています。安全・安心な農産物の供給と、環境保全型農業の実践に取り組んでいます。

**黄色旗を振り**

**交通安全呼び掛ける**

6月30日、朝8時30分からJA本所前の国道12号歩道で、伊藤組合



長、高田専務理事以下21名の職員が国道沿いに並び、「シートベルト着用」「スピードダウン」と記した黄色の旗を振り、国道を往来する車の運転者に交通安全を呼び掛けました。

これは、美唄地区安全運転管理組合に属する全事業所が取り組む活動で、職場内の交通安全意識の醸成と地域社会で車輛を使つて事業活動をする一員として、無事故無違反を社会に広く訴え掛け「交通事故のない安全で安心な社会の実現」を目指す狙いがあります。

**「小林篤二翁顕彰公園」の  
雑草取り行う**

6月27日、小林篤二翁顕彰公園の雑草取りを行いました。雑草取りを行ったのは、当JAの役員OBで構成する協栄会（会長 森川和徳）の皆さんと毎回応援してくれる美助つと倶楽部（代表 前川 隆）の皆さんです。公園内の雑草取りは毎年6月と9月の2回行っています。

JAからは、伊藤組合長、青木総務課長の2人、協栄会の皆さん10人、美助つと倶楽部の皆さん7名の総勢19人で、午後4時から開始し40分ほどで終えました。協栄会の中にはノコギリを持参し、低木の伸びた邪魔な枝を切ってくれる方もいました。

役員OBの皆さんは、久々に顔を合わせてお互いに近況などを話しながら汗を流していました。  
作業を終えて、森川会長は、当日のお礼と、秋の雑草取りをお願いしたいと述べていました。



雑草取りを終えて

**峰延農協年金友の会**

**パークゴルフ大会**

7月9日、峰延農協年金友の会（吉田 栄会長）は三笠市岡山にある三笠市パークゴルフ場でパークゴルフ大会を行い、16人が参加し白熱したプレーが繰り広げられました。

当日は、気温が30℃近くあり蒸し暑く、開会の挨拶を行った伊藤組合長は、気温が高いので体調に気を

つけて楽しんで下さいと述べました。参加者は5組に分かれて2つのコースからスタート、日頃の練習の成果を発揮しようと真剣にプレーしていました。



熱戦の結果、今大会の優勝者は、男性部門は渡辺幹夫さん（峰延東松盛会）、女性部門は渡辺艶子さん（峰延東松盛会）となり、競技終了後に表彰式が行われました。

**「トルコキキョウ」の出荷開始**

7月10日から、JAみねのぶ花王倶楽部のトルコキキョウの出荷がスタートしました。翌11日には花市場の担当者も来訪し、生育状況の確認や今後の出荷計画について意見交換を行いました。出荷はお盆の時期をピークに、10月中旬頃まで続く予定です。みずみずしく美しいトルコキキョウを、ぜひご期待ください。



**美唄市小麦集出荷調製施設 操業始まる**

小麦集出荷調製施設で本年産麦の受け入れが7月16日から始まりました。

刈り取り作業は早いところで7月9日頃から始まり、14日頃にピークを迎えました。受入予定数量は、きたほなみ2、030t・ゆめちから170t・春よ恋673t・はるさら33tとなっております。

今年も安全作業で事故のない操業を目指して参ります。平成13年に操業開始した峰延小麦集出荷調製施設は今年が25年目の操業となりますが、今年初の操業開始（7月16日）が操業以来一番早い操業開始となります。



**役員研修会を開催**

役員は、資質向上と組織運営の強化を目的として、5月28日および6月27日に役員研修会を開催しました。

5月28日の研修会では、JA北海道中央会岩見沢支所の古川支所長と高橋専門相談員を講師に迎え、「JAみねのぶの歴史と伝統」「理事の役割・義務・責任」などについて学びました。参加した役員からは、改めてJAの歴史や理事としての責任の重さを認識する良い機会となったとの声が寄せられました。

6月27日の研修会では、「マネーローディング・ゼロ資金供与対策」について学びました。本研修は役員専用の



内容であり、役員が主導して対策を進める必要性や、把握すべき事項や体制整備のポイントなどについて学びました。

今後も役員一人ひとりが高い意識を持ち、組織の健全な運営に努めてまいります。



**若手職員向けキャリア形成  
「働く意味を再定義する  
職員研修」開催**

7月16日、当JA会議室にて、29歳以下の正職員を対象としたキャリア形成研修会が開催されました。研修には対象職員7名が参加しました。

今回の講師は「高卒就職マッチングにか」の西野氏で、この事業は高卒

人材採用支援強化を目的とし、当JAとは本年度から業務委託契約を締結しています。研修はグループワークを中心に進行され、職員たちの積極的な参加が見られました。

この研修の目的は、職員が主体性を持って仕事に取り組むためのマインドとスキルを学び、さらなる成長を促すことです。自己対話型のワークシートを活用し、職員同士が自身の考えを共有することで、今後の仕事の取り組み方を見つめ直す貴重な機会となりました。



**「コンプライアンス&広報研修」  
日本農業新聞を活用して開催**

6月17日、当JA会議室にて「コンプライアンス&広報研修」が開催さ

れ、主査以下の正職員20名が参加しました。

日本農業新聞の波多腰職員を講師に迎え、広報力の重要性や効果的な情報発信方法、記事作成の技術について学びました。これらの知識は、日々の業務へ活かすことを目的としています。

研修では、新聞記事の具体的な事例を参考に、当JAの業務から記事化できる内容を考え、実際に記事を作成するグループワークが行われました。この実践的な取り組みにより、参加者の理解が深まりました。今後は新聞購読を継続しながら、職員が記事を作成し、日本農業新聞への投稿を行っていく予定です。



**職員研修会**

**「JAにおける生成AIの活用展望について」開催**

6月27日、当JA会議室にて「生成AIの活用展望」をテーマとした研修が行われ、正職員、準職員あわせて35名が参加しました。

講師にホクレン管理本部デジタル推進課の大澤課長を迎え、DXの最新動向や、生成AIを活用した業務改善の可能性について学びました。この研修は、職員の意識向上を目的に企画されたものです。

研修の中では具体的な取り組み



事例が紹介され、参加者からは「日常業務にAIを積極的に取り入れ、効率化を図りたい」という前向きな意見が寄せられました。

**岩見沢「地元企業合同説明会」  
&美唄「合同職業説明会」に出展**

6月25日、「であえーる岩見沢」にて開催された「地元企業合同説明会」、および6月27日、「美唄市民会館」にて開催された「合同職業説明会」に当JAが出展しました。

これらのイベントは、高校生の地元就職を支援する目的で行われ、当JAのブースには約40名の高校生が訪れました。

説明会では、当JAの業務内容や



地域に根ざした取り組みについて紹介し、参加した高校生にJAの仕事の魅力を伝える機会となりました。今後の進路選択の参考として、JAの役割ややりがいを知ってもらえる貴重な場となりました。



**職員の退職**

・宮下皓旭(金融課・共済)  
令和7年7月16日付

少しも損傷、劣化しない穀物では、ひえが最高のものであるから、申し合わせて、出来るだけ多く貯蔵しておくべきである。

ひえを食料に使うとき、凶作の年には、糠を取らずに使う。殻付きひえ一斗に、小麦四、五升程度入れて、水車の石臼で挽き、絹ふるいにかけて、団子にして食べればよい。俗に餅草という蓮の若草を混ぜれば、味はもつと良くなる。ひえを凶作の年の食用にするには、この食べ方が一番徳用な方法である。ひえ飯にする名は、損である。

しかし、位の上の人の食料にするには、ひえを二昼夜水に浸けておいてから、せいろで蒸かし、その後良く干して、臼で挽き、糠を取って、米を少し混ぜて飯に炊けば、量が増える。水を少し多めに入れて炊くと良い。位の上の人の食料にするには、この方法が一番良い。裕福な人でも、自分のためにも、多く備蓄しておいても良い穀物である。出来るだけ備蓄することである。

**徳 報**  
**ひえの食べ方**



二宮尊徳翁は次のように話された。貯蔵しておいて、数十年経っても